



しびき



CONTENTS

- 8 2023年出荷実績
- 7 再生ドラム缶工場見学レポート
- 6 オリジナルアシストスーツを開発・導入
- 6 能登半島地震の災害復旧用にドラム缶を緊急出荷
- 6 物流の2024年問題への対応
- 5 AOSD役員会報告／識者による講演会
- 4 ICDM役員会報告／AOSD国際会議開催
- 1 令和6年新年会



ドラム缶工業会 藤井 清澄 理事長



令和6年

新年会

ドラム缶工業会の新年会が1月12日(金)午後5時30分から、鉄鋼会館(東京都中央区)で開催されました。本年は1月1日に発生した能登半島地震により賀詞交歓会を新年会に改めるとともに乾杯を自粛しました。冒頭、挨拶に立った藤井清澄理事長【日鉄ドラム(株)代表取締役社長】は本年の課題や活動について次のように述べました。



「本日は大変ご多用にも関わらず経済産業省の松野金属課長を始めとして、ご来賓の方々、多くの工業会の会員メンバー、関係者の方々にご参列を賜りまして心より感謝いたします。本年1月1日に起こりました令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々に対して心よりご冥福をお祈りいたします。さらに被災者の方々、それから全ての関係者の方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の1日も早い復興をお祈りしたいと思っております。

昨年5月に2度目となる理事長を拝命しました。前回、新年会を挙げていただいたのが2020年1月15日であり、国内で初めて新型コロナウイルス感染症の患者が発見された日であります。以来、今日に至るまでこういった多くの方々とお会いし、親しく懇談する機会は自重させていただいておりました。今回、4年ぶりに新年会を執り行わせていただけることに感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症も昨年5月に5類感染症に移行し、一旦の収束を見ました。以来、経済活動・文化活動ともに盛り上がってきているわけですが、昨年7～9月の実質GDPが3四半期ぶりにマイナスになったように、長引く物価高、それによる個人消費の低迷やエネルギー価格の高止まり、あるいは人手不足といったことにより順調一本槍で回復してきたということではないようです。我々の主要な需要家である石油化学メーカー様も昨年は大変厳しい1年となったようです。実際、エチレンの稼働率は好不況の目安である90%を割ること実に17ヶ月連続という状況に立ち至っております。この背景には二つのキーワードがあると思います。一つは中国向け汎用化学品の低迷。もう一つは国内自動車向け化学品の低迷です。自動車については、昨年4月あたりから完成車生産台数は復活を始めてまいりました。ただ、そこに至るまでに部品あるいは資材の在庫が相当積み上がっており、その調整に時間を要したため自動車の増産が新たな注文に結びつくまでには半年以上かかりました。実感としてドラム缶の増に結びついてきたのが昨年11月末以降であり、この頃には在庫調整も大底を打ったのではな

いかと考えております。もう一つのキーワードである中国向けを中心とした汎用化学品の輸出低迷は少し長くかかりそうです。

このようなお客様の状況のもと、鋼製ドラム缶あるいは鋼製ペール缶の出荷数も昨年はかなり厳しいものでした。先日、2023年暦年のドラム缶とペール缶の実績が出ましたが、リーマン・ショック以降最低水準であった2022年に対し、さらに8%落ちるといった数字になったようです。ドラム缶については、2021年に1400万本を上回るまでいきましたが、それから前年割れが19ヶ月連続で続き、昨年は1228万本と相当落ち込んだ1年となりました。2024年は在庫が底を打ったという意味で量は戻ってくると思いますが、急激な回復というのは難しいのではないかと思います。

さらに今年は二つの大きな構造変化に直面する1年になるかと思えます。一つは需給面の構造的な課題、もう一つはコスト面です。需給面は中国においてエチレンの生産能力が爆発的に伸びております。現在ですら日本の約8倍強の生産能力がありますが、さらなる増強がここ数年で計画されています。低迷している中国需要ではこれを賄いきれず、汎用の化学製品が東アジアのマーケットに流れ出してくるという状況に立ち至っております。この辺が汎用化学品の厳しさに繋がっており、少し時間がかかる問題だと思えます。

もう一つの構造的変化はコスト面であります。我々は資源がない国でもの作りを行っており、我々の主要な原材料である鉄も鉄鉱石・石炭は輸入に頼り切りということで、かなりボラティリティの高いコストの動き方をするなか高止まりする傾向にあります。さらに国内の特異な事象として人手不足とこれによる人件費のアップ。それから今年は2024年の物流問題が現実化します。これも運賃等の高騰に影響する要因になるかと思えます。

このようなことにかに対処していくのが大きな課題であり、ドラム缶工業会ではいくつかの課題について重点的に取り組むことで皆様に貢献したいと思っております。第1は石油化学業界のファインケミカル化を背景に鋼製ドラム缶あるいは鋼製ペール缶の優位性を生かした需要創出です。各化学メーカーはファインケミカル、高付加価値品の世界にパラダイムシフトをされようとしています。そういう中での小ロット・多品種への移行をドラム缶およびペール缶にとって新たなサービスが生まれる機会として捕まえていきたいと思えます。工業会としても改めてSDGsの実現に相対的に優位な産業容器であることや、内容物の高機能化・高付加価値化に対応できる品質特性を有することを様々な局面で

発信していきたいと思っております。

第2に各業界で喫緊の課題となっております物流の2024年問題の解決に工業会としても取り組んでまいります。この4月からトラックドライバーの時間外労働の960時間上限規制が始まります。ドラム缶工業会では、昨年、物流ワーキンググループを立ち上げました。ワーキンググループでは業界共通の課題を集約し、工業会としてお取引先様への要請文書を取りまとめました。また、経済産業省と国土交通省によって設置されたフィジカルインターネット実現会議の化学品ワーキンググループに工業会としてオブザーバー参加しており、最大需要家様である石油化学業界と連携を取りながら物流の効率化を進めてまいります。

第3に国際会議活動の継続強化も図ってまいります。日本が会長職を務めるアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会(AOSD)では3年に1度、国際会議を開催しています。2019年の中国蘇州での開催以降、自粛してきましたが、今年は4月22日~24日の日程で韓国仁川で第11回会議を開催します。今回は「Steel Drums: A Step Towards Global Sustainability」をテーマに、アジアをはじめ欧米からの参画を含め約200名の出席と、約20件のテーマに沿った技術発表を予定しています。この国際会議は世界で唯一の鋼製ドラム缶のコンファレンスです。日本からアクセスが便利な韓国で開催されますので、大勢の方に参加していただきますようAOSD会長の立場としてこの場をお借りしてお願いを申し上げます。

それから第4に安全とコンプライアンスの問題であります。安全委員会での会員各社の災害事例の交換・分析、あるいはその対策の共有化について今後も積極的に取り組み、会員各社の災害低減に努めていきたいと思えます。

今年は辰年です。空に駆け上がる竜の如く、皆さんと手を携えて一步一步登っていきたく思います。目線は上げて、一步一步坂を上っていけば必ずや坂の上の雲が見えると確信しています。本年がご参集の皆様、ご家族、それからドラム缶工業会にとりまして、実り多い素晴らしい年になることを祈念しまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました」

**引き続き来賓を代表して経済産業省製造産業局
金属課の松野大輔課長より祝辞をいただきました。**



「経済産業省を代表しましてご挨拶申し上げます。まず年始に能登地方で発生しました地震につきまして、お亡くなりになられた方のご冥福を心から申し上げますとともに被災者

の皆様にお見舞いを申し上げます。発災直後から経済産業省も齋藤大臣以下、総出で対応に努めているところがございます。

この発災の中でドラム缶工業会の皆様には本当にお世話になり、まずもって御礼を申し上げなければいけないということで参りました。停電が多く発生し、電力各社の協力のもと復旧に取り組んでおりますが、それでも電力の供給が追いつかず主要な避難所や病院、高齢者施設等重要な施設に多くの電源車を派遣しています。電源車は燃料がないと動かないため、軽油を入れるドラム缶を手配できないかという要請もあり、工業会の皆さんにご相談申し上げたところ、ご快諾をいただき各会社さんに大変なご無理をいただきながらドラム缶のご提供・ご寄付をいただいております。心より御礼申し上げます。復旧・復興に向けては時間がかかりそうでございますので、今後ともご協力をお願いしなければならない可能性が十分ございます。次もぜひご支援をお願いできればと思います。

不幸な出来事がありました。私としては逆にドラム缶のありがたさや重要性を痛感をした年始となりました。理事長のお話にありましたが、伝統と実績がありながらもドラム缶は新しくなっていく可能性を秘めています。そのようなドラム缶産業が皆さんの手によって、今年1年成長を続けていただけるよう経済産業省としてもサポートしてまいりたいと思っております。足元、様々なリスクがありますし、政府をあげて価格転嫁を支援してまいりましたが、労務費についてはまだまだ手が打てていないという声をたくさん頂戴をしています。労務費の価格転嫁を進めようということで、昨年末には公正取引委員会が受注者・発注者の双方に対してガイドラインを作成して公表しています。こういった動きも含めて、今年も現実の皆さんのご商売の中に浸透していくよう我々もいろんな形でサポートしていきたいと思っております。

暗い話ばかりではなく、国内投資は100兆円を超えるよう

な水準できており、賃上げも皆様方のご尽力のおかげで30年ぶりの高い数字が出てきています。我々も、苦しみ続けてきた日本経済も潮目を迎えてきたのではないかとこの掛け声を様々な局面でかけさせていただいております。

ます。政府は昨年の秋から冬にかけて総合経済対策、そして補正予算を連続的に策定し、経済対策を進めてまいります。ビジネスの現場において皆様方のところに行き届くように、このあたりも一緒に進めていければありがたいと思います。

最後に二つだけお願いがありまして、一つは大阪万博です。開催まで450日ぐらいに迫ってまいりました。いろんな形でご理解とご協力をいただければと思います。もう一つは福島です。福島については昨年、処理水の海洋放出をさせていただいております。様々な形で対策をとり、安全性を保ちながら放出ができていくことが確認されております。他方でいくつかの国で日本産の品物の輸入を規制する動きも出ており、何とか福島および三陸の物産を全国の皆さんのご協力を得ながら支えていきたいと思っております。

今年は能登の震災で始まりましたが、これをぜひ乗り越えて皆様方にとって良い1年にしたいと思いますし、しなければならない年だと思っております。簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます」

閉会にあたり長尾浩志副理事長【(株)長尾製缶所代表取締役社長】が「本日は新年のご多忙のところ、お集まりいただき誠にありがとうございます。新年のめでたい席ではありますが、去る1月1日夕刻に能登半島で起きた地震に触れないわけにはまいりません。この地震で被災された方々のお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。厳寒の中、実際の救助等にご尽力いただいている全ての皆様方に心から感謝いたします。

地震に加えて痛ましい航空事故も発生する誠に厳しい新年の幕開けではありますが、「疾風に勁草を知る」という言葉がありますが、このような大変なときであればあるほど、我々は業界全体で実力を示し、結束を固くして頑張っていかなければならないと改めて決意を強くしております。今年1年が会員の皆様方にとって良い年となることとともに、本日もご参集の皆様方のご多幸とご健勝を祈念して挨拶の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます」と挨拶しました。



経済産業省製造産業局 松野大輔 金属課長



ドラム缶工業会 長尾浩志 副理事長

AOSD役員会を開催しました

(2023年10月東京にて)



ドラム缶工業会が会長職を務めるAOSD（アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会）はコロナ禍でリモート開催が続いていましたが、2023年10月10日（火）に4年ぶりに対面での年次役員会を東京で開催しました。日本、韓国、インド、中国、タイからの役員が参加し、競争法遵守の確認のもとで、各国における生産の状況説明や、環境問題等の国際間での共通の課題について意見交換を行いました。

各国からの報告によれば、2022年の生産統計は、主要需要分野である化学業界の生産・輸出動向等の影響でインドを除いて前年比マイナスとなりました。環境問題については、GHGプロトコルのCO₂排出量の算出基準等、各国における官民の対応状況等について話し合いました。また韓国の役員から今年4月の仁川でのAOSD国際会議の準備状況の説明があり、各国役員から会議の成功に向けた協力的なコメントが出されました。



会議後の集合写真



第11回AOSD国際会議（24年4月：韓国仁川）の開催が近づいています



前号でもお知らせしましたが、コロナ禍で延期されていたAOSD国際会議が4月22日～24日にかけて韓国仁川のParadise Cityで行われます。テーマは「Steel Drums: A Step Towards Global Sustainability（鋼製ドラム：グローバルな持続可能性実現への一歩）」で、開催地の韓国はじめ、日本、インド、タイ等のアジア主要国ならびにアメリカ、ヨーロッパからも関係者が集まり、約200名規模で開催します。各地域からの統計の報告に続いて、技術発表が約20件予定されており、テーマに沿った活動の成果が2日間にわたって発表される予定です。

会議期間中には参加諸国によるブースでの展示や、ホスト会社のInsung Co., Ltd.の唐津工場見学会が行われます。

会議スケジュールや開催場所等の詳細情報については、国際会議のホームページをご覧ください。

<https://aosdkorea.co.kr/>

国際会議HPはこちらの2次元コードから



参加のご希望がありましたら、ドラム缶工業会までお問い合わせください。

ICDM役員会を開催しました

(2023年9月ベルギー・ゲントにて)

米州、欧州、アジアの3地域の鋼製ドラム缶製造業者の工業会で構成される国際鋼製ドラム製造業連合会 (ICDM) の2023年の役員会がベルギーのゲント市で4年ぶりに対面で開催されました。ICDMにはドラム缶工業会 (JSDA) がアジア (AOSD) の代表として参加しています。

欧米の生産統計の報告では、近年、米国におけるエネルギーコストが相対的に安価であることや地政学リスクを回避したいという思惑を背景に、石油化学業界が製造拠点を欧州等から米国に移す動きがある、との紹介がありました。この影響もあり、欧州における2022年のドラム缶生産量が前年同期比約6%の減少となった一方、米国では欧州やアジアほどの落ち込みはないとの報告でした。

環境問題に関しては、GHGプロトコールにおけるスコープ3について、米国より、ドラム缶新缶として世界的に統一された数値をICDMで検討してはどうかとの提起があり議論しました。これに関してJSDAからは、ドラム缶新缶のスコープ3では原材料の冷延鋼板がCO₂排出量の大勢を占めていることから、2023年のG7関係閣僚会議のIEA部会にて鉄鋼製品のCO₂算出方法集約の検討を行うことが決定されており、その結果を待つのが適当であると提案しました。また地域や個社により調達する鋼板の製法や原料が異なりこれによっても数値に差異が出ることを指摘しました。ICDMとしては引き続き国際的な議論や地域の動向等を共有していきます。

また、輪番により2024年から3年間、AOSD会長がICDMの会長職を務めます。次回の年次役員会は12月に京都で開催される予定です。

坂本真樹様講演会

人工知能の可能性

～自動運転車からロボットの感情まで～

ドラム缶工業会は毎年、今の時代に学ぶべきテーマを選定し、各分野の専門家を講師としてお招きして会員向けの講演会を継続して開催しています。

昨年10月26日には、国立大学法人電気通信大学副学長であり人工知能先端研究センター副センター長の坂本真樹様をお迎えし、鉄鋼会館で講演会を開催しました(会場参加とリモート参加を合わせ、およそ100名が出席)。

今回の講演会では、まず、内閣府の第5期科学技術基本計画について解説いただきました。情報社会 (Society4.0) に続く第5世代 (Society5.0) ではサイバー空間とフィジカル (現実) 空間が高度に融合した社会の実現を目指すものであることが紹介されました。次に、集積したビッグデータをフィジカル空間にフィードバックする役割を果たす人工知能 (AI) の進化状況について、自動運転での画像認識の事例を用いて説明をいただきました。そして、現在ChatGPTに代表される生成型AI・対話型AIのコミュニケーションレベルについて、自然言語で学習できるように進化し、以前とは異なり文系の人でも扱いやすくなっており、既に我々の生活や業務をサポートするレベルに達しているが、まだサイバー空間とフィジカル空間を融合させるまでは至っていないとの指摘がありました。さらに、AIが生成したものを評価する分析系AIの開発と、日本独自のプラットフォーム構築の重要性も示されました。最後に坂本先生の研究室が、ある企業と共同で実施した、画像AIを使った質感データベース活用による製造業での適用事例が紹介され、質の高いデータベース化における感性オノマトペによる有効性とそこでの日本語の強みが論じられました。

出席者からは、「最近職場でもChatGPT使用が許可された」「ドラム缶製造はもの作りのリアルワールドであるが今日はAIの可能性についての気づきを得られた」との感想がありました。世代・業務内容ともに多岐にわたる参加者全員にとって、AIへの理解を深める有意義な講演会となりました。



物流の2024年問題への対応

ドラム缶工業会における物流課題への取組について 「物流の2024年問題への対応」

本年4月より、改正労働基準法に基づくトラックドライバーの時間外労働時間の条件に関する規制が施行されます。これにより様々な分野で物流が停滞する所謂「物流の2024年問題」が懸念されています。ドラム缶・ペール缶は人々の暮らしに不可欠な石油化学、食料、医療等の分野で、原料や製品の輸送や保管に欠かせない基幹インフラであり、安定供給のためのサプライチェーンの維持は極めて重要です。ドラム缶工業会として、物流問題の解決に向けて以下のように取り組んでいます。

1 物流ワーキンググループの設置

昨年10月に、ドラム缶工業会としての現状の物流課題の整理と、「2024年問題」の解決や今後の物流の効率化に向けた検討を進めるために、会員各社の物流部門のエキスパートで構成する物流ワーキンググループを設置し活動を開始しました。

2 「フィジカルインターネット実現会議」の分科会・化学品WGへのオブザーバー参加

ドラム缶工業会は、経済産業省・国土交通省が主導する「フィジカルインターネット実現会議」内に設置された化学品WGに、昨年10月よりオブザーバーとして参加しています。主要需要業界である化学業界における物流の課題解決に向けた自主行動計画やアクションプランの策定と連携して、ドラム缶業界における物流の課題を解決すべく検討を進めています。

3 「ドラム缶（空缶）物流における2024年問題への対応」に関するお取引先様向け文書の発信

昨年6月、政府の関係閣僚会議にて、(1)商慣行の見直し、(2)物流の効率化、(3)荷主・消費者の行動変容、についての抜本的・総合的な対策が「物流革新に向けた政策パッケージ」として決定され、行政より、「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」が公表されました。これらの要請に応え、実効性のある取組とするためには、発・着荷主間の連携が不可欠です。この度、ドラム缶工業会として、「ドラム缶（空缶）物流における2024年問題」の解決のために、①トラック受渡条件の標準化に関する取組、②ガイドラインに則った更なる附帯作業および荷待ち・荷役時間の削減に関する取組、③納入条件の緩和に関する取組、の3点について、お取引先様宛にご協力を要請する文書を取り纏めました。各お取引先様とは会員個社が本文書も用いて個別に協議を行います。



お取引先様向け文書は
2次元コードからご覧いただけます



令和6年能登半島地震の災害復旧用にドラム缶を緊急出荷しました

ドラム缶工業会は、経済産業省からの緊急支援要請に応じて、1月5日に会員企業であるJFE協和容器株式会社（新潟市）から北陸電力株式会社殿（富山市・金沢市の指定場所）にドラム缶（200ℓ）計200本を無償で緊急出荷いたしました。これらのドラム缶は、災害復旧に必要な電力をまかなうための電源車用の燃料供給容器として使用されます。

今後も、被災地の皆様に寄り添い、経済産業省等の要請に基づいて、各会員企業からのドラム缶・ペール缶の供給を通じた支援に努めて参ります。

ドラム缶工業会 オリジナルアシストスーツを開発・導入

～荷役作業の負担軽減と業務効率の向上で持続可能な作業環境の実現を目指す取組～

ドラム缶の空缶を輸送する際、輸送効率や敷地の制約からパレット化やクレーンの使用が困難であり、トラックへの積み込みや荷降ろし等の移動を手荷役で行っており作業者の荷役作業の負担軽減が課題となっています。そこで設備導入ではなくアシストスーツでの負担軽減を目的に、ドラム缶工業会はユーピーアール株式会社と共同でドラム缶新缶荷役用のオリジナルアシストスーツの開発・検討を進め、この度、2023年11月より工業会の会員企業での試用導入に至りました。

現在、会員企業各社の現場にてアシストスーツの使用効果の検証を進めています。ドラム缶工業会として、会員企業各社における荷役作業の更なる負担軽減と業務効率化に向けた取組を進めてまいります。



企画・統計委員会 再生ドラム缶工場見学レポート

朝日容器工業株式会社様 (神奈川県平塚市)

ドラム缶工業会の企画・統計委員会で平塚市の再生ドラム缶製造会社の朝日容器工業(株)を訪問しました。

日 時 2023年10月19日(木) 午後1時～午後3時

見学場所 朝日容器工業株式会社 平塚工場

見学参加者 ドラム缶7社 10名

朝日容器工業(株)は、1957年に設立された再生ドラム缶を製造するメーカーで、ドラム缶工業会の会員である(株)東京ドラム罐製作所のグループ企業です。また、同一グループで新缶と再生缶の両方を製造する国内唯一の企業でもあります。

鋼製ドラム缶は、新缶として使用された後、再生缶メーカーによって回収され、内部洗浄や整形・再塗装を経て市場に再び提供されます。このプロセスを数回繰り返した後、スクラップとして製鉄所で新しい鋼材に生まれ変わるドラム缶は、リユース(再使用)とリサイクル(再利用)に優れた循環型リサイクルの優等生といえます。

今回の訪問では、回収したドラム缶からの残渣の取り出しから、オープン缶とタイト缶の両方の洗浄、整形ラインや再塗装、そして検査工程から出荷置場まで一貫した工程を見学しました。見学後の質疑応答では、新缶とは異なるビジネス形態や苦勞されている点についても伺い、非常に有意義な機会となりました。

また、朝日容器工業(株)では、積極的に障害者を雇用しており、今回の見学でも製造ラインで集中して難しい作業に従事されている障害者従業員の方々にお会いしました。今井社長は前職で障害者教育に携わられた知識と信念を実業の場で実現しており、まさにドラム缶業界におけるSDGsへの取組の代表例となっています。



2023年(1月~12月)出荷実績

2023年の200L缶の出荷は、前年に比べ8.0%減、1,064千本減の12,283千本となりました。

用途別では、前年に比べ化学向け(7.3%減、749千本減)、石油向け(9.7%減、195千本減)、塗料向け(12.7%減、86千本減)、食料品向け(13.6%減、29千本減)、その他向け(4.1%減、6千本減)、全ての分野で減少となりました。

ペール缶は前年比7.6%減の17,129千本、中小型缶は増減なしの393千本となりました。

2023年缶種別・用途別出荷実績

缶種	2023年実績						
	本数 (千本)	前年比 (%)	用途別〔本数(千本)〕				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,283	92.0	1,816 (90.3)	9,552 (92.7)	590 (87.3)	181 (86.4)	143 (95.9)
ペール缶	17,129	92.4	9,496 (92.8)	6,666 (91.0)	466 (118.9)	0	501 (85.2)
中小型缶	393	100.0	0	382	0	0	11
亜鉛鉄板缶	331	94.9	0	323	4	3	2
ステンレス缶	34	94.5	0	34	0	0	0
合計	30,170	—	11,312	16,957	1,059	185	657
前年比(%)	—	—	90.7	92.6	88.6	87.0	93.6
構成比(%)	—	—	18.2	74.4	4.6	1.4	1.4

(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下端()は前年比。
 2. 前年比ならびに、構成比は、トン数ベース。
 3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。
 4. 総本数は、30,169,550本。表上数値は四捨五入による差異がある。

(単位:千本)

缶種	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
200L缶	13,206	13,165	13,717	13,579	13,587	14,101	14,134	13,606	12,618	14,265	13,347	12,283
ペール缶	19,174	19,286	19,188	18,935	19,177	19,681	19,528	18,776	17,434	19,002	18,539	17,129
中小型缶	626	539	484	479	420	416	493	504	448	427	393	393
亜鉛鉄板缶	373	398	405	356	366	350	386	419	355	327	349	331
ステンレス缶	35	33	37	30	40	34	39	33	28	30	36	34
合計	33,413	33,421	33,831	33,379	33,590	34,583	34,580	33,337	30,882	34,052	32,663	30,170

・・・事務局だより・・・

至らぬ点が多々あったと思いますが、皆様方のご協力により工業会新年会を無事に開催できました。4月にはAOSD国際会議が控えており韓国のホスト会社と準備を進めています。この大きなイベントも皆様のご支援が不可欠ですので、一層のご協力をお願い申し上げます。

会員

〈正会員〉

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製作所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本製作所

〈準会員〉

- 森島金属工業(株)

〈賛助会員〉

- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025
 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
 (鉄鋼会館6階)
 TEL 03-3669-5141
 FAX 03-3669-2969
 e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.88(2024年2月9日発行)

発行人 ドラム缶工業会
 常務理事 事務局長 廣川 二郎

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。
 本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。